

DATA

場所：宮城県柴田郡川崎町国営みちのく社の湖畔公園  
 実施者：国営みちのく社の湖畔公園工事事務所  
 東蔵王総合リゾート相談室 [TEL (0224) 84-6211]  
 参加者：川崎町の2つの小学校（川崎町立川崎第二小学校と川崎町立川内小学校）4～6年生 42名、先生 6名  
 実施日：平成13年7月11・12・16日  
 学習時間：事前授業45分、現地での活動2時間30分

関係する分野



背景

水辺にたくさんの生きものが棲める環境を作ることを目的に、釜房ダム湖畔に日本在来の植物のお花畑をつくる取り組みを、地元小学生と一緒に進めています。

お花畑づくりを通じてダム湖畔の自然環境に触れたり観察したりなど、ダム湖周辺の環境を学ぶとともに、みちのく公園と地域の方々が一緒に地域の自然資源を作り、守ることができます。

内容

釜房ダム湖畔の春先だけ3メートルほど水に沈み、夏の間は地表が現れる場所がお花畑づくりの対象地です。まず、公園工事事務所がここに一面に生えているオオオナモミという帰化植物を刈り取りました。その後、児童が日本在来の植物の苗（湖畔に少数見られる場所から株分けしたもの）を移植しました。また、昨年度の夏に移植した植物の周りの草刈りをして、成長した様子を観察しました。



土のぬくもりを感じながら



写生のようす



元気に育つてね

成果

ダム湖畔に生育する植物や動物を知ってもらうことができました。また、人間が管理しながらより豊かな生きものすみかを作る必要性を感じてもらうとともに、みちのく公園と子供たちが「湖畔一面に広がるお花畑づくり」という共通の将来目標を持って活動することができたと感じています。

参加者の声

「いろいろな種類の植物があることがわかった」  
 （川崎町立川崎第二小学校 5年生）

「暑かったけど面白かった。植えた植物に元気に育って欲しい」  
 （川崎町立川内小学校 5年生）



観察した植物をスケッチ



順調に育っていますね



1年たって数が増えました



きれいな花も咲いたよ

ポイント

- 移植前に出張授業を行い、どうして人間の力で湖畔に植物を移植する必要があるのかを子供たちに理解してもらうように工夫しています。
- 前年に移植した植物の成長を観察するなど、継続的な学習へも配慮しました。

- 移植目的地までの移動の間、ダム湖の自然観察をしながら歩いて、普段触れることのないダム湖の自然環境を知ってもらうようにしました。

次のステップに向けて

- 現在はダム湖周辺に生育している植物から株分けして苗をつくっていますが、今後は植物から種を採取し、それを子供たちに育ててもらってダム湖畔に移植するという、苗作り→移植→管理・観察までの一連のプログラムとして実施し、さらに理解を深めていただく必要があります。